

与那国漁協青年部活動

— 増養殖漁業の可能性を模索して —

瀬 底 正 武

1. 課 題

与那国漁協青年部活動（増養殖漁業の可能性を模索して）

2. 現 状

漁協青年部は平成4年度からスタートした漁協再建整備の担手として、計画策定時から係わってきたが、生産計画の骨格となっているクルマエビ養殖だけでは直接的には組合員の経営の安定、意識の改革などほどとおいものがある。ならば青年部は何をなすべきか部員数5名の小さな青年部は、組合長、町役場と相談した所、八重山地区水産振興協議会、専門部会に調査を依頼した。

3. 指導の目的

漁船漁業一辺倒等特にカジキ流し釣だけでは、経営は不安定であり複合経営を目差す必要がある。そのためには漁協青年部を主体に増養殖漁業の可能性を探るための調査を専門部会の協力を得て実施した。同時に組織的には自律組織を目標に、活動については積極的に生産活動と関連を持たせ役割分担を明確にする。

4. 指導方法

1) 比川湾、久部漁港周辺沿岸の有効利用を目的にコブシメの人工産卵床による漁場造成の実施（協力：日裁協、担当者：岡技術員）

2) 与那国におけるヤコウガイ資源は年々減少傾向にある。（遊漁者であろう）

ヤコウガイの親貝がよく漁獲されるカタバル沖に放流の実施（管理体制の確立）

（協力：水試支場、担当者：玉城研究員）

3) 久部漁港入口で漁協から容易に監視出来る場所、低質は石灰岩にドリル法により初のシャコ

ガイ放流の実施（糸数普及員）

4) 比川湾におけるモズク、クビレツタの養殖適地調査の実施（瀬底普及員）

（直接現地において種保存、シート及び藻体採苗、育苗、本場り、管理等手法指導）

5) 漁類養殖の実施（稚魚の輸送から給餌、選別、エルバージュ薬浴、網替え等）

5. 指導結果

1) コブシメの人工産卵床の設置

・ H4年9月比川湾に3基、久部漁協周辺に3基設置、H6年1月久部漁港3基設置。

・ H4年～6年にかけてトリカルネットによる人工産卵床9基設置し、産卵状況を調査したが両地区とも産卵の確認はされていない。

・ 新たにH6年1月設置も含めてしばらく様子を見ることにした。

2) ヤコウガイの放流

・ H4年12月南側のカタバル沖に30mmの稚貝800個放流、H6年3月2回目の放流を予定（70mm稚貝80個）

・ その後水試支場による調査はしてないが八重山漁協アギャー組合がグルクン追込漁の際観察した所、放流海域周辺で30mm～50mm程度の稚貝を確認している。

・ 3月の2回目放流時に調査の予定

3) シャコガイの放流

・ H5年7月20日与那国で初のヒメジャコ5,000個放流した。

・ 第1回測定（H5年9月13日）NO1地点で平均12.84mm、NO2地点で13.91mm、第2回測定（H6年1月31日）NO1地点で平均14.56mm、NO2地点で15.35mmであった。H6年は5,000個放流予定。

- ・第1回測定時の歩留りは85%。
- ・第2回はハマサンゴが再生し測定不可能。
- 4) 魚類養殖の実施
- ・養殖技術の習得を目的に、ヒメフエダイ、ツムブリ等の養殖を実施した。
- ・ヒメフエダイ 3000 尾、ツムブリ 200 尾H 6 年 1 月出荷済である。(数量等調査中) ちなみに H 6 年種苗は、ハマフエフキ 5000 尾、チンシラー 5000 尾養殖予定である。
- 5) オキナワモズク、クビレヅタ養殖の実施
- ・別紙報告書参照
- ・クビレヅタについては、H 6 年度の新技術定着試験で実施予定。



コブシメ産卵礁の製作

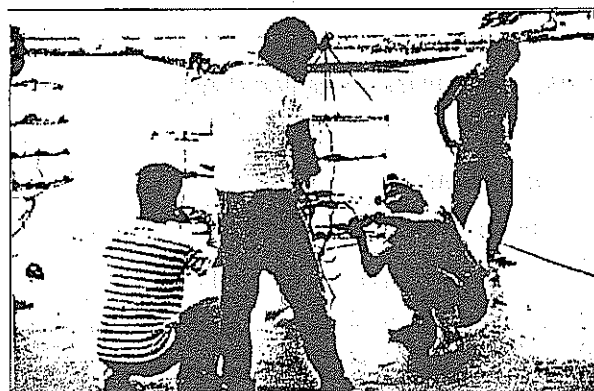
5. 問題点

1) 複合経営移行への意識改革

- ・『カジキ釣れない男は、海人ではない』ユニカーマン監督の『老人と海』の映像を通して、その歴史の重みを感じられるように現在の若者(青年部)にもしっかりと受け継がれている。
- ・このことは、複合化いわゆる着業の組合せの際の障害にもなっている。

2) 放流後の管理体制の確立

- ・遊漁(ダイバー)対策等監視体制の強化
- ・管理規定を策定し計画的な放流の実施
- ・魚類養殖については、当分の間組合自営とし青年部は網替え等、人でのかかる作業については積極的に協力する。



アンドン籠によるクビレヅタの養殖試験

